

教育学部生における教員志望意識と批判的思考態度の関係

沖 林 洋 平

Relationship between critical thinking dispositions and aspiring consciousness in undergraduate education

OKIBAYASHI Yohei

(Received September 27, 2013)

問題と目的

本論文の目的は、教育学部生における教員志望意識と批判的思考態度の関係を検討することにある。本研究では、教員養成に関して特色ある取り組みを行っている大学教員にインタビューを行うことで、各大学の取り組みの実態を把握することを目指した。中央教育審議会が平成18年に発表した「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」において、教員養成・免許制度の改革の具体的な方策として、次のようなものが挙げられている。「社会の激しい変動や学校教育が抱える課題の複雑・多様化等の中で、教員に対する揺るぎない信頼を確立していくためには、養成段階から、その後の教職生活までを一つの過程として捉え、その全体を通じて、教員として必要な資質能力を確実に保持するため、必要な施策を総合的に講じていくことが重要である。このような視点に立ち、以下では、教員養成・免許制度に関する改革について、教職課程の質的水準の向上、「教職大学院」制度の創設、教員免許更新制の導入、教員養成・免許制度に関するその他の改善方策、採用、研修及び人事管理等の改善・充実の5つの具体的な方策を提言している。今回の改革の中核をなすものであり、これらの改革を一体的に進めることが、改革の目標を達成する上でも、極めて重要である。3つの改革方策の基本理念と相互の関連を示すと、以下の通りである。」この具体的な方策の1つに、「教職課程の質的水準の向上」が挙げられている。また、これに連動するようなかたちをとって、多くの大学で、GPなどで教員養成の改革が行われるようになった。例えば、東北大学などでは、学習等達成度記録簿、いわゆるポートフォリオを改良するような取り組みが行われている。あるいは、愛媛大学などでは、学部教育を俯瞰できるようなフローチャートとして、いわゆるカリキュラムマップなどの作成が行われるようになっている。このような、教員養成に対する様々な改革の目的の1つとして、資質や能力の高い教員となれるように、学部教育を通して学生の学びを支援することがあるだろう。山口大学の教育学部では、平成21年度より小学校教育コースが設置され、主として小学校教員養成を目的とする教員養成プログラムが実施されるようになった。小学校教育コースの教育目的は、次の5つである「1. 現代の子どもがおかれた状況を総合的、実践的に理解し、適切な教育指導を行うことができる教員の養成。2. 子どもの発達を総合的に理解するとともに、個にあった教育指導を洞察し実践できるための知識・能力をもった教員の養成。3. 教育的課題等に主体的に取り組み、柔軟かつ創造的に解決をはかろうとする姿勢、およびそのために必要な基礎的力量をもった人材の養成。4. 地域や学校などで、将来にわたって指導的役割が担える人材の養成。5. 地域や学校の成員としての自覚を有し、共感的・協働的に

活動できる人材の養成。」これに対応して、小学校教育コースの Graduation Policy は、次の3つである。「以下の事項について、基礎的な資質・能力を備えていること。

1. 人間の発達について系統的に理解するとともに、教育に関する実践や理論を踏まえ、効果的な教育指導の在り方について考察することができる。
2. 子どもの実態を総合的に理解し、目標、課題等を明らかにした上で、創意工夫しながら適切な教育指導を行うことができる。
3. 同僚や保護者、地域の人々と連携・協働し、多様な場面における子どもの教育指導を、総合的かつ創造的に実践できる。」

このような教育目的や Graduation Policy に基づいて、小学校教育コースでは、平成23年度から科研の取り組みとして、「成長し続ける教員を支える評価のありかた及びその指標策定システムの構築」というプロジェクトを開始した。これは、大学教員と学生とでは評価システムのイメージにずれがあり、両者の間を埋める評価指標（ミッシング・サイクル）の創出が必要なこと、また、到達目標というものが大学教員側から一方的に示される場合、学生にその意図が十分に理解されず、期待した効果が得られない恐れがあること、そして、到達目標の策定に当たっては、単なるトップダウンでなく、学生の側からみたボトムアップを組み入れる工夫が必要であり、かつまた複合的な評価サイクルを連携させる新たな評価指標策定システムの構築についても検討が必要であるという問題意識から、学生が自発的に研修をし続けることのできる枠組みを開発することを目的の1つとしたプロジェクトである。

本研究では、教育学部生における教員志望意識と批判的思考態度の関係を検討することにより、山口大学教育学部の小学校教育コースの教員志望意識について検討することを目指した。

楠見（2011）は、批判的思考とは、広範な思考を含む概念であり、さまざまな定義がある、とした上で、批判的思考を3つの観点から定義している。まず、批判的思考は、論理的・合理的思考であり、規準（criteria）に従う思考である（楠見，1996）というものである。次に、批判的思考とは、自分の推論プロセスを意識的に吟味する内省的（Reflective）・熟慮的思考である、というものである。そして、批判的思考とは、より良い思考をおこなうために、目標や文脈に応じて実行される目標志向的思考である（Halpern, 1998；楠見，1996）というものである。

以上のような定義は、批判的思考は、意識的で反省的な思考であることを示している。実際、批判的思考を意識的過程であると位置づけ、批判的思考のメタ認知に基づく個人内変動要因としての使用判断を検討した研究もおこなわれるようになってきている（田中・楠見，2012）。

このように、批判的思考は、問題解決に対する自発的対応を促進する意識に関連するものであり、教員の職能に深く関連するものであると考えられる。そこで本研究では、教育学部生における教員志望意識と批判的思考態度の関連を検討した。

方 法

調査時期 2012年12月に調査を実施した。

調査対象者 本研究では、山口大学教育学部生334名を対象とした。

調査項目 本研究では、質問紙による調査を実施した。本研究の分析で用いた調査項目は次のとおりである。

1. 批判的思考態度（平山・楠見，2004）
2. 教員志望意識 自作
3. アイデンティティスタイル尺度

結 果

批判的思考態度とアイデンティティスタイルの関係 批判的思考態度とアイデンティティスタイルの関係について、全体の相関関係を示したのが Table1である。次に、教員志望意識と批判的思考態度の関連を示したのが Table2である。

Table1 批判的思考態度とアイデンティティスタイルの関係

	論理的思考	客観性	探究心	証拠の重視
情報志向	0.350※	0.461※	0.493※	0.483※
拡散志向	-0.264 †	-0.246 †	-0.259 †	-0.179 †
規範志向	0.134	0.090	0.105	0.154

Table2 教員志望意識と批判的思考態度の関連

	就職	教員	論理的思考	客観性	探究心	証拠の重視
就職	1.000					
教員	-0.316※	1.000				
論理的思考	-0.105	0.086	1.000			
客観性	0.029	0.076	0.262	1.000		
探究心	-0.039	0.127	0.094	0.380※	1.000	
証拠の重視	-0.112	0.008	0.347※	0.364※	0.275※	1.000

教員志望意識と批判的思考態度の関係 教員志望意識と批判的思考態度の関係について全体の相関関係を示したのが Table2である。

まとめ

本研究では、教員志望意識と批判的思考態度の関連について検討を行った。補足的分析として、教育学部生の就職希望意識と教員志望意識、アイデンティティスタイルと批判的思考態度の関係について検討を行った。分析の結果、全体の傾向としては、情報志向アイデンティティスタイルを持つ学生は批判的思考態度が高いということ、教員志望意識と就職希望意識は比較的強い正の相関を持つこと、教員志望意識と探究心は弱いながらも有意な正の相関を持つことが明らかとなった。本研究では、ひとまず、教育学部生全体としての教員志望意識と批判的思考態度の関連を検討したが、コース別の詳細な分析が課題となる。

謝 辞

本研究は、科研基盤研究 C 研究課題番号：23501149 教員養成における自発的研修活動の効果と評価方法の確立 研究代表者：岡村吉永 山口大学教育学部教授に一部助成を受けました。ここに感謝を記します。

本研究は、科研費基盤研究 C 研究課題番号：24530825 「高次リテラシーとしての批判的読解力のアセスメントと教育実践」研究代表者：沖村 洋平 山口大学教育学部准教授に一部助成を受けて行われました。

引用文献

平山るみ・楠見孝 (2004) 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響：証拠評価と結論生成課題を用いての検討 教育心理学研究 52(2), 186-198